

原 著

長岡中央総合病院におけるアピラテロンの使用成績

長岡中央総合病院、泌尿器科

ひる ま 楓、信下 智広、高橋 英祐、照沼 正博

目的：アピラテロンは去勢抵抗性前立腺癌に対する新規抗アンドロゲン剤として2014年7月より承認され、今日では広く使用されている。去勢抵抗性前立腺癌に対して使用した11症例の使用成績について検討し報告する。

対象と方法：2014年9月から2018年6月の間にアピラテロンの使用を使用した去勢抵抗性前立腺癌11症例について、診断時年齢、診断時PSA、グリソンスコア、今まで使用した薬剤、治療効果期間、PSAの経過などを後ろ向きに調査した。

結果：11症例中、3症例においてアピラテロンの効果を認めた。有効した症例の特徴として、無効症例と比較して、初期ホルモン製剤の効果期間が長い傾向にあった。

結論：初期ホルモンの効果期間が長い前立腺癌症例に対し、早期のアピラテロン使用が有効な可能性が示唆される。

キーワード：去勢抵抗性前立腺癌、アピラテロン、新規抗アンドロゲン剤

結 果

平均年齢は70.3歳、iPSAの中央値は129であり、病期はstageCが2例、stageD2が11例であった。グリソンスコアは8点が3例、9点が4例、10点が4例であった。(表1) 11症例のうち、3症例においてアピラテロンの有効性を確認した。3症例については、無効症例と比較して、初期ホルモン製剤の効果期間が長い傾向にあった。(表2)

症例1 73歳男性 (図1)

iPSA 129 ng/mL、Gleason Score 5+5=10、cT3aN1M1、StageD2

アピラテロン効果期間：24.7ヶ月

症例2 69歳男性 (図2)

iPSA 12.4 ng/mL、Gleason Score 4+5=9、cT3bN0M0、StageC

アピラテロン効果期間：19.1ヶ月

症例3 61歳男性 (図3)

iPSA 145 ng/mL、Gleason Score 4+5=9、cT4N1M1、StageD2

アピラテロン効果期間：14.2ヶ月

考 察

COA-AA 301試験のサブデータ解析では、試験開始時点の全身状態良好症例、前化学療法レジメン数が1レジメンの症例でアピラテロン治療群が良好な成績を上げている(2)。また、エンザルタミドとアピラテロンのどちらを先行させるべきかについての後ろ向き研究では、アピラテロン先行投与のほうが、エンザルタミド先行投与より、2剤を合わせた無増悪生存期間が有意に延長したという報告が散見される(3)(4)。当院使用症例についても、エンザルタミドを先行させた1症例ではアピラテロンの有効性は得られず、アピラテロンを先行させた1症例ではエンザルタミドが著効した結果となった。

また、初回治療効果期間についてアピラテロン有効例では中央値が470日であったのに対し、無効例では210.5日と、アピラテロン有効例では初回治療効果期間が長期の傾向にあった。

以上の事から、初回治療効果期間の長い症例に対し、比較的早期のアピラテロン導入が有効であることが示唆される。

結 言

去勢抵抗性前立腺癌に対する新規薬剤の出現により治療のパラダイムシフトが起こり、各治療薬剤投与のタイミングや適応症例に関する議論がなされている。近年は、内分泌療法未治療のハイリスクの予後因子を有する前立腺がんを対象とした日本を含む国際共同第Ⅲ相LATITUDE試験(PCR3011)試験において、ADT(アンドロゲン除去)療法より有効性が示され、ADT療法未施行のハイリスク予後因子を有する前立腺癌に対して適応となった(1)。当院でアピラテロンを使用した11症例について、その効果を判断すると共に、どのような症例に対してアピラテロンの有効性を得られるかを検討した。

対 象 と 方 法

2014年9月から2018年6月の間にアピラテロンの使用を使用した去勢抵抗性前立腺癌11症例について、診断時年齢、診断時PSA、グリソンスコア、今まで使用した薬剤、治療効果期間、PSAの経過などを後ろ向きに調査した。効果判定は血中PSA値低下とし、次薬剤への変更もしくはアピラテロン使用停止までの期間を効果期間とした。

文 献

1. Fizazi K, Tran N, Fein L et al. Abiraterone plus Prednisone in Metastatic, Castration-Sensitive Prostate Cancer. *N Eng J Med* 2017 ; 377 (4) : 352 - 60.
2. Fizazi K, Scher HI, Molita A et al. COU-AA-301 Investigators. Abiraterone acetate for treatment of metastatic castration-resistant prostate cancer : final overall survival analysis of the COU-AA-301 randomised, double-blinded, placebo-controlled phase 3 study. *Lancet Oncol* 2012 ; 13 : 983 - 92.
3. Terada N, Maughan BL, Akamatsu S et al. Exploring the optimal sequence of abiraterone and enzalutamide in patients with chemotherapy-naïve castration-resistant prostate cancer : The Kyoto-Baltimore collaboration. *Int J Urol* 2017 ; 24 (6) : 441 - 8.
4. Mori K, Kimura T, Onuma H et al. Lactate dehydrogenase predicts combined progression-free survival after sequential therapy with abiraterone and enzalutamide for patients with castration-resistant prostate cancer. *Prostate* 2017 ; 77 (10) : 1144 - 50.

英文抄録

Original article

Treatment outcome of Abilateron at Nagaoka Chuo General Hospital

Nagaoka Chuo General Hospital, Department of urology
Kaede Hiruma, Tomohiro Nobusita, Eisuke Takahashi,
Masahiro Terunuma

Objective : Aviraterone has been approved as a novel anti-androgen agent for castration-resistant prostate cancer from July 2014 and is widely used today. We examine and report on the use results of eleven cases used for castration resistant prostate cancer.

Study design : For 11 cases of castration-resistant prostate cancer using aviraterone during September 2008 to June 2018, Diagnosis at age, Diagnosis PSA, Gleason score, Drug used until using aviraterone, Duration of treatment effect, progress of PSA etc was investigated retroactively.

Results : The effect of aviraterone was confirmed in 3 cases. As a feature of the effective case, the effect period of the initial hormone preparation tended to be longer than that of the ineffective case.

Conclusion : It is suggested that early use of aviraterone may be effective for prostate cancer cases with long initial hormone effect period.

Key words : castration-resistant prostate cancer, aviraterone, novel antiandrogens

表1. 年齢と病期

No.	年齢	GS	T	N	M	初回治療後から再発までの期間(日)
1	73	5+5	3a	1	1	485
2	68	5+5	4	1	1	480
3	68	5+4	4	1	1	164
4	87	3+5	3b	1	1	214
5	53	4+4	4	0	1	346
6	78	4+5	3a	1	1	157
7	69	4+5	3b	0	0	406
8	76	5+5	4	1	1	178
9	70	5+5	3a	0	1	207
10	71	4+4	3a	0	0	1780
11	61	4+5	4	1	1	470

表 2. 初回治療効果とアビラテロンの有効性

アビラテロンの有効性	初回治療後から再発までの期間中央値(日)
有効 (3例)	470
無効 (8例)	210.5

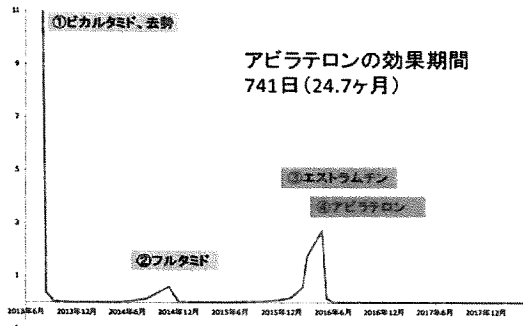


図 1. 有効例 1 (表 1 の No 1)

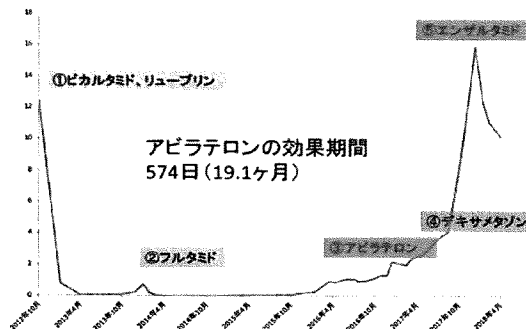


図 2. 有効例 2 (表 1 の No 7)

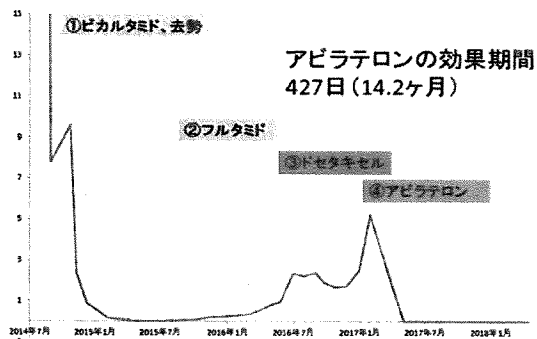


図 3. 有効例 3 (表 1 の No 11)